

PSC Report

パートナーシップ・
サポートセンター

Vol.92



発行 特定非営利活動法人
パートナーシップ・サポートセンター(PSC)
〒464-0067 名古屋市千種区池下1丁目11番21号
サンコート池下4F
TEL (052) 762-0401 FAX (052) 762-0407
E-Mail info@psc.or.jp URL http://www.psc.or.jp
発行人・岸田眞代

発行にあたって

熱い戦いが続く日本シリーズ(野球)も、このレポートが届くころには決着がついている頃でしょうか?みなさまお元気ですか。PSC Report 92号をお届けいたします。

例年のことながら「パートナーシップ大賞」の第2次審査も、日本シリーズに劣らず熱い議論が続きました。最後のプレゼンテーションで決まる確率大、と言ってもいい程の接戦間違いありません。それに先立ち行われる記念シンポジウムと併せ、11月30日の本番、5事業の発表を、みなさまとともに見届けていただきたいものです。

もう一つ、見届けていただきたいのは、中部経済新聞の連載です。9月6日の第1回を皮切りに、来年3月までの連載が決定しました。「企業とNPO 企業が伸びる 地域が活きる」と題して、PSC15年の歴史を織り込みながら、NPOと企業の協働推進の歴史・評価・考え方などを明らかにしていきます。

「第10回日本パートナーシップ大賞」に合わせて発刊する第9回の事例集に、その一部も掲載の予定です。ぜひご一読を!

2013年10月吉日

パートナーシップ・サポートセンター
代表理事 岸田眞代

第8回企業&NPO協働アイデアコンテスト

最優秀賞は
(N)マイペースプロジェクト(滋賀県)に決定!

10月17日(木)名古屋商工会議所ホールにて最終選考会を開催しました。滋賀、長野、三重、愛知、福井から参戦の5団体が参加。各団体の活動で多忙な中、協働を実現するために自分たちの想いを伝えたいと何度もデータをつくり直し、ギリギリまでプレゼンを準備してこの日を迎えることとなりました。

最優秀賞を獲得した滋賀県大津市の(N)マイペースプロジェクトのアイデア提案は、「障がい者が気遣うことなく楽しめる野外音楽イベントを企業と協働し開催する」という内容で、イベントを通じて命の大切さなどを伝える新しい文化の創造を目指しています。

映像を効果的に使用した熱い想いのこもったプレゼンテーションで、会場の参加者を魅了していました。(山崎)

(2ページにつづく)



第10回日本パートナーシップ大賞

最終審査へ進む5事業が決まりました!

10月26日(土)、10月27日(日)の両日、二次審査委員会を行いました。全国から集まった35件の応募事業の中から、8月の一次審査を通過した8事業について、9月~10月中旬までの約1ヵ月半をかけて、調査スタッフ10名による現地調査を実施しました。

二次審査では、今年度も甲乙つけ難い優れた協働事業について、白熱した議論が繰り広げられ、厳正なる審査の結果、最終審査に進む5事業が決まりました。

11月30日(土)の最終審査では、5事業の実施NPOと企業の両者による最終プレゼンテーションが公開で行われ、グランプリ他各賞が決まります。(水野)

◆最終プレゼンテーション事業(応募順)

1	eラーニングによる「まなび場」の展開事業
2	市民活動を応援する場と組織づくり事業
3	トヨタ・子どもとアーティストの出会い事業
4	チョコレートで児童労働をなくす協働事業
5	フィデアのチャリティージャム事業

今年は2部構成!

11月30日(土)は、中京大学へ!!

とき:2013年11月30日(土)

ところ:中京大学 ヤマテホール
(名古屋市昭和区)

【第1部】12:30~13:50

第10回日本パートナーシップ大賞 & PSC創立15周年記念シンポジウム
「パートナーシップ大賞から
協働を考える」

【第2部】14:00~17:30

第10回日本パートナーシップ大賞 最終審査&表彰式

◇最終プレゼンテーション・最終審査

◇グランプリ及び各賞発表・表彰式

参加費...第1部 1,000円、第2部 1,000円

第1部・第2部通し1,500円(どちらもPSC会員は無料)

詳しくは、チラシをご覧ください



第8回企業&NPO協働アイデアコンテスト

コンテスト結果の発表・表彰は 「NPO・企業・行政が交流する」 和やかな交流会にて

協働アイデアコンテストの魅力は、アイデアのプレゼンテーションだけでなく結果発表を行う交流会にもあります。普段関わりの少ないセクター同士が、お食事やお酒をいただきながらの和やかな雰囲気の中で直接交流でき、つながりが生まれていきます。会場のあちこちで名刺交換が始まり笑顔で会話が交され、いつ結果発表を始めようかと少し遠慮してしまうほどです。(山崎) 交流会で発表された各賞は次の通りです。

- ◆最優秀賞 (N) マイペースプロジェクト(滋賀県大津市)
「障がい者のためのRockFes『パラリンロック』」
- ◆優秀賞 (N) あったかハウス(名古屋市)
「別れて暮らす親と子が活用できる『面会交流広場』の提供」
- ◆特別賞 (N) マザーズライフサポーター(三重県鈴鹿市)
「乳幼児ママの短時間・短期間就労支援」
- ◆奨励賞 (N) 信州サポート事業和実塾(長野市)
「『農村に行くと好きな仕事をみつけよう!』プロジェクト」、
(N) コラボNPOふくい(福井市)
「カフェテリアプラン活用による社会参加プログラム」

最優秀賞受賞者コメント

(N) マイペースプロジェクト理事長 こばしひろあき 小梯泰明氏

本日は誠にありがとうございました。多大なご迷惑とお手数をおかけしたのかかわらずこのような賞を頂けたこと、大変光栄に思っております。しかし最優秀賞を取ったからといって、すぐに協働に結びつくとは思っておりません。スタートラインに立つ資格を頂いたにすぎないと思っております。「これからが本番」。この事を肝に命じて進んで参ります。これからも何卒よろしくお願いたします。



講評(岸田代表理事より)

今回、1位と2位の差が審査員の中ではわずか2点でした。ただプレゼンのインパクトが大きかったのか会場票によって最優秀賞が決まりました。が、注文をつけるなら、もっと協働そのものの説明がもう少しほしかったと思います。それが僅差になった理由でしょう。

プレゼンの後の質疑応答については、それをあらかじめ想定して最初のプレゼン内容に入れるか入れないかも検討しておくとういいます。最初から入れなければ分からない事業自体の理解が出来ないものと、逆に質問に答える形の方がよりインパクトのあるものをしっかり区別しておくのではないのでしょうか。

また、全国にいくつかの似たような事例がある場合は、ここしかない特徴か、あるいはさらに一歩踏み込んだ「次」なる提案を、するといいたと思います。ぜひ、協働実現に向けて頑張りましょう。



ミニ講演「高校生NPOとの協働による コミュニティ・ビジネス」

万協製薬株式会社代表取締役社長 松浦信男氏

万協製薬は三重県多気町にあり、『地域貢献型ブランド』を作っています。第9回日本パートナーシップ大賞でグランプリとなった「まごコスメプロジェクト」は相可高校生産経済科の高校生NPO『植える美ing』とのコラボ事業。2006年に設立された高校生による全国初のNPO法人です。

この協働をつないだのは、「高校生レストラン」に出てくる多気町役場の岸川さんです。彼に「ビジネスとして高校生と協働してみてもどう?」と紹介され、企画・試作・アンケート・パッケージのデザインなどすべてに関わってもらい、今の大人はこのままでいいのか!と、社会にアンチテーゼを投げかけました。

最近では社長である私にNOと言う人はいませんが、高校生は平気でNOと言います。経営者としてマネジメントの勉強にもなりました。

協働事業としても広がり、近江兄弟社ともリップクリームを商品化。売上の一部が『植える美ing』に寄付され、売上は4000万円。マネジメント料として高校生NPOは商品を受け取ることに。

NPOのみなさん、活動が社会にどう影響を与えているか、それを常に考えてください。本当に良いことは社会に広まっていきますよ。そして最終的にはNPOという形を離れて、価値のある商品が残り、ビジネスとして成り立つのだと思います。



愛知県ESD研修

ESD先進事例を視察、理解深まる!

【現地視察①】

市民参加の地域づくり先進地、長野県飯田市へ

9月6日(金)、長野県飯田市を訪問。飯田市は古くから住民自治活動や社会教育が盛んで、公民館活動などをはじめ、行政と市民が協働でまちづくりを進めている地域です。飯田市公民館副館長 木下巨一氏、おひさま進歩エネルギー(株)代表取締役 原亮弘氏、(株)南信州観光公社代表取締役 高橋充氏、(株)飯田まちづくりカンパニー取締役事業部長 三石秀樹氏の計4名からお話を聞き、中心市街地を散策して実際の取り組みを見学。参加者からは「多くの人が関わって地域をつくっている様子が良く分かった」「市民が主役で行政が裏方という体制が重要だと思った」などの感想が出されました。



【現地視察②】

環境モデル都市、豊田市へ

第2回現地視察は、9月27日(金)豊田市を訪問。まず豊田市立土橋小学校を訪問し、エコ改修した校舎を小学6年生の「エコガイド」の皆さんに案



内していただきました。小学生が自分の言葉でしっかりと語る様子に、視察した行政職員の多くが感心していました。

次にエコフルタウンへ行き、最新の環境技術を「見える化」した様々な取り組みを見学。行政と企業、市民が一体となった環境配慮の事業推進を肌で感じた一日でした。

【グループワーク②】

ESDの視点から、災害に強いまちをつくるには？

9月10日(火)岡崎市にて、第2回グループワークを実施しました。「防災とまちづくり」をテーマにした、岡崎市福祉部福祉総務課主任主査 齋藤哲也氏とNPO法人レスキューストックヤード代表理事 栗田暢之氏による講演の後、「ESD推進に向けた学校と地域社会の連携」をテーマとして金沢大学教授/ESD-J理事 鈴木克徳氏にお話をいただきました。

この後、「ESDの視点を取り入れた災害に強い『まち』をつくるために」というテーマで、グループに分かれてワークショップ。「行政だけでなくセクターを超えた連携が大切」「行政の防災部署だけでなく、全ての部署が取り組むことが必要」「引き続き職場でも検討したい」といった意見が出され、防災について話し合う重要性を再認識しました。(松橋)



義史氏が登壇して「安城市が目指す協働と課題」についてのパネルトークを行いました。グループワークでは、協働で取り組みたいテーマ出しと具体的な方法について、グループごとに様々なアイデアが出されました。(水野)



CSR推進事業

(株)真誠CSR委員会 想いのこもった 初めての「CSRレポート」が完成!

2011年、PSCが愛知県より受託した「ステークホルダー・ダイアログ&CSR推進による中小企業の活力向上事業」への参加から始まった(株)真誠CSR委員会。そのあゆみをまとめた委員会手作りの「真誠CSRレポート」が完成しました。CSRを学びながら自分たちで考え、取り組み、実践していくストーリーが描かれています。そして、取り組みのひとつであるNPOとの協働プロジェクトでは、ママチームによる検討会が開かれ、子育てママの困りごとを解決できる新製品づくりを目指します。(山崎)



安城市 市民協働推進計画スタートアップ・プログラム

協働の楽しさ・魅力を知る

今年度、安城市より受託した職員研修全3回が終了しました。安城市職員23名にご参加いただき、市民活動の基礎から、市民を巻き込んだまちづくりの基本的な考え方を学びました。(水野)



- 9月12日(木) 講師 早瀬 昇 氏
日本NPOセンター代表理事
- 9月19日(木) 講師 河井 孝仁 氏
東海大学文学部広報メディア学科教授
- 10月4日(金) 講師 市川 博美 氏
横浜市温暖化対策統括本部政策調整幹

「まちづくりデビュー」応援します!

まちづくり人(びと)養成講座がはじまりました!

安城市のまちづくりに関心のある市民の方々と市職員とが、講義とワークショップを通して、協働のまちづくりに必要な知識や技術、役割などについて共に学びます。安城市民交流センターにて全5回。

10月20日(日)の初回、市川講師による「まちづくり人(びと)とは?~多様な担い手によるまちづくり」では、協働には欠かせないチームワークを養うワークショップから始まり、意外にも身近に居る協働相手の見つけ方などの講義や、市民協働課課長補佐の長谷憲治氏と、参加団体の「あんねっと」代表小森

PSC代表岸田の“東へ西へ”(2013年9月~10月)

9/3(火)夜、「この方法ならあなたの会社は飛躍的に伸びます!」のタイトルで講座(春日井コンサルタント主催)。40名程を対象とした講演とワークショップという濃密な2時間だった。9/6(金)は猛暑の中、1台のバスをチャーターし長野県飯田市のESD視察の本番。同日から、中部経済新聞の連載が始まった。「企業とNPO 企業が伸びる 地域が活きる」というタイトルで数カ月に渡って書くことに。どうぞ期待!?

9/9(月)は中部社研にて「企業&NPO 協働アイデアコンテスト」の審査会。9/10(火)は岡崎市で第2回ESD研修。9/12(木)は早瀬昇氏を講師に安城市の職員研修の第1回目。つづいて9/19(木)は河井孝仁PSC理事/東海大学教授を講師に第2回目を開催。いずれもワークショップを担当した。(ちなみに第3回目は10/4(金)に市川博美PSC理事/ソーシャルコーディネーターを講師に開催)。9/25(水)はサンメッセ経営戦略セミナーで「地域や社会を豊かにする企業とNPOの協働」と題して基調講演。9/26(木)は真誠の第16回CSR委員会、9/27(火)は豊田市のESD視察と続いた。

10/1(火)は呼びかけ人のひとりとして、労務に関する検討会のため早朝から東京へ。NPOの働き方は全国共通の悩み。何とかしなくちゃ、である。10/8(火)は静岡県から「協働人材養成講座を実施して欲しい」との依頼で来所。10/17(木)は「協働アイデアコンテスト」の本番。10/20(日)からは安城市の「まちづくり人(びと)養成講座」も始まった。5回シリーズの第1回。市川理事の再登板。10/26-27(土日)は「第10回日本パートナーシップ大賞」の第2次審査。侃々諤々の末、ようやく最終審査に進む5事業が決定した(1P参照)。

(2013.10.26 岸田真代)

SAVE JAPANプロジェクト

2つのプログラムで都市の自然を満喫!

【鶴舞公園の意外な穴場を見つけよう!】

9月28日(土)、環境プログラム「都市の緑を再発見!〜鶴舞公園の意外な穴場を見つけよう!〜」を行いました。講師は「都市の自然のモノサシ研究会」の皆さん、参加者は36名。

気持のよい秋晴れのなか、樹木・トンボ・チョウに詳しい「博士」の方々に案内いただきながら、鶴舞公園の様々なエリアを散策しました。

参加者からは「チョウの名前の多さやその生態に驚いた」「何度も鶴舞公園に来ていたが、新しい発見がたくさんあった」「次回公園に来る楽しみが増えた」などの感想が出されました。



【知っているかな?樹木の『名前』〜街路樹〜】

10月19日(土)、久屋大通公園にて「なごやの樹木と友達に

なる会(街路樹)」を行いました。講師は「森林インストラクター会“愛”」の皆さん、参加者は36名。午前中はクイズやフィールドビンゴなどをしながら

久屋大通公園を散策し、樹木の名前や特徴、自然の不思議について学びました。午後からは屋内にて、木の実を使ったクリスマス飾りづくり。様々な素材を使って、皆さんお気に入りの作品が出来たようです。普段何気なく見ている「街路樹」について、見て触って、楽しく学んだ一日でした。引き続き、11月2日(土)、12月7日(土)にプログラムを実施する予定です。参加者募集中です!(詳細はHPをご覧ください)(松橋)



PSC PICK UP! ピックアップ

第10回日本パートナーシップ大賞
ご協賛のお願い!

今年で10回目を迎える「パートナーシップ大賞」は、これまでに企業478社、NPO283団体から、238事業の応募をいただきました。それぞれの協働事業は、地域や社会に大きな役割を果たしています。

社会にますます必要とされる「企業とNPOの協働」を、本事業を通じてさらに広め、豊かな市民社会づくりに貢献します。ご支援いただきました協賛金は、副賞および現地調査・選考等を含む運営費として最大限に活用させていただきます。ぜひとも、本事業の趣旨をご理解いただき、日本パートナーシップ大賞を支えてください。

企業・団体 1口 50,000円
個人サポーター 1口 3,000円

ボランティア大募集!!

<募集1>「第10回日本パートナーシップ大賞」

11月30日(土)当日のボランティア

・会場のご案内や受付などのお手伝いです。

<募集2>事務局ボランティア

・資料整理や文書作成、データ集計やDMの発送作業など簡単な事務作業です。

・週1〜2日、1日3時間からOK。

募集1、2とも交通費支給(但し上限850円)

編集後記

11/30のパートナーシップ大賞でお披露目すべく、第9回事例集の作成に奮闘中です(∧o∧;) (山崎)。

栗、銀杏、南瓜……、冬に備えて実りの秋を満喫中です(松橋)。12年ぶりのBクラス。クライマックスシリーズも日本シリーズもない寂しい秋です(T_T) (水野)。

年末になり忙しくなりますね。寒さ対策は万全に! (松本)。